



3/3 埼玉県生協連ピースフォーラム

「核兵器をなくすために必要なこと」を学び、考えました



講師の川崎哲さん

川崎哲さん(ICAN核兵器廃絶国際キャンペーン会長兼国際運営委員)を講師に迎えて、埼玉会館とZoomによるオンラインで開催し、78人が参加しました。川崎さんから、ロシアのウクライナへの武力侵攻について、世界が歩んできた核軍縮の歴史について、核兵器禁止条約について、そして私たちができること、しなければいけないことについて、お話をいただきました。また、後半では、埼玉県原爆被害者協議会(しらさぎ会)の「これまでの活動とこれから考えていきたいこと」について、会長の原明範さんから報告いただきました。

埼玉県原爆被害者協議会(しらさぎ会)主催 核兵器のない世界を実現しよう!活動交流会

核兵器をなくすための活動を どう広げていくのか、意見交換しました

埼玉県生協連ピースフォーラム同日午後、しらさぎ会主催で活動交流会を開催。埼玉会館会議室およびオンラインで28人が参加、団体・個人からの活動報告、各地で依頼を受けて行っているしらさぎ会の「被爆の証言」活動についての報告の後、核兵器をなくすための活動をどのように広げるのかについて、意見交換を行いました。高校生などの若い世代を含め、関心を持っていない人に振り向いてもらうためには何が必要かなどについて話し合いました。



ずっとくらしのなかに
50th

写真ニュース

県内生協の活動を写真で伝える情報誌

2022
夏号
No.82
(2022年7月発行)

Top News

6/23 埼玉県生活協同組合連合会 第51回通常総会・創立50周年記念講演会

2022年度事業計画など すべての議案が承認されました

創立50周年記念講演会を 開催しました



提案する吉川会長理事



全議案、承認可決されました



会場ようす

埼玉会館にて、代議員定数41人中41人(実出席29人、書面出席12人)が出席し、開催しました。今回の通常総会は、引き続き安全確保しながら実出席で運営しました。来賓として、埼玉県県民生活部消費生活課課長若松孝治様、埼玉県農業協同組合中央会専務理事小池和明様、埼玉県地域婦人会連合会会長柿沼トミ子様よりごあいさついただきました。次に、吉川尚彦会長理事が第1号議案から第4号議案まで一括提案し、4人の代議員からの発言、議案討議のまとめを経て、採決をおこない、全ての議案が承認可決されました。



埼玉県立大学
川越雅弘さん

埼玉県生協連創立50周年記念講演会が、ロイヤルパインズホテル浦和にて開催され、会場49人、オンライン26人、計75人が参加しました。「地域共生社会の実現を目指した多主体協働への取り組み～大学をハブとしたネットワーク構築とマッチング～」と題して、川越雅弘さんにご講演いただきました。



5/23 第58回埼玉県消費者大会 プレ学習会

食品表示の最新動向について学びました

埼玉会館会議室およびZoomによるオンラインで、(一社) Food Communication Compass 代表 森田 満樹さんを講師に学習会を開催し、16団体72人(会場27人、Zoom45人)が参加しました。食品表示の法律、食品表示の項目、原料原産地表示、遺伝子組換え食品表示、食品添加物表示制度、健康食品と機能性表示食品、食品表示のこれからについて、食品表示の基本的なことから、実例を示しながら多岐にわたり、詳しく説明いただきました。質疑応答では、会場からもオンラインでも質問が寄せられ、ていねいにお答えいただきました。



今回は対面で行ないました

5/31 埼玉県食品衛生安全局と 消費者団体との懇談会

埼玉県食品衛生監視指導計画などについて 説明いただきました

埼玉会館会議室にて、埼玉県食品衛生安全局5人、消費者団体9人の出席で開催しました。2021年度(2022年2月)に予定した懇談会がコロナ禍で延期になり、開催したものです。埼玉県食品衛生監視指導計画の執行状況や今年度の計画のポイントなど、鳥インフルエンザや豚熱の防疫措置の実施状況、S-GAP推進における現状と課題について報告いただき、質疑応答を行いました。

6/21 NPO法人埼玉消費者被害をなくす会 第19回通常総会および記念講演を行いました



池本誠司理事長



総会記念講演

埼玉会館にて、第19回通常総会を開催し、理事・監事、事務局を含め37人が出席しました。池本誠司理事長によるあいさつ、吉川尚彦専務理事からの議案提案ののち、採決では全議案可決承認されました。
*表決権125個中、実出席24個、委任7個、書面79個、計111個(採決時)
総会終了後には、「消費者契約法の改正と残された課題」をテーマに弁護士の野山宏さんにご講演いただき、会場37人、オンライン52人計89人が参加しました。



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっしゅ」

co-op 埼玉県生活協同組合連合会



生活協同組合コープみらい

1年を通じて合計200トンのお米を寄贈します



フードバンク埼玉永田理事(右)コープみらい新井理事長(左)

コープみらいは、コロナ禍で困難を強いられている生活困窮者の支援と日本の米づくりの応援を目的に、2022年3月より1年間を通し、合計約200トンのお米を、地域のフードバンクをはじめ、生活困窮者へ食料支援などを行っている団体へ寄贈しています。埼玉エリアでは、5月20日までに13団体へ約11トンを寄贈し、県内の子ども食堂やフードパントリーなどで活用いただいています。

こくみん共済coop〈全労済〉

子どもの健全育成の取り組みを行いました



動画配信の案内

子育て世代の支援として、子ども食堂への食料提供に力を入れている「特定非営利活動法人フードバンク埼玉」へ未使用食品46点の寄贈と当会事務局内で募った募金33,816円を寄附しました。また、次世代を担う子どもたちとご家族等への支援を目的に、「あそぶ力は生きる力〜健やかな子どもを育むためのヒント〜」と題し、専門家2名による講演動画を県内約900の協力団体、関係団体等へ限定配信しました。

生活クラブ生活協同組合

実験で体感!食育講座



越谷市の蒲生てらこや(放課後子ども教室)の小学生10人が参加して、食の安全や健康な食生活について学ぶ「おかしサイエンスラボ」を開催しました。子どもたちは、お菓子やジュースの色や糖分を知る実験を交えて、普段は無意識に使っている五感の働きや美味しさを感じる仕組みや、毎日のごはんの大切さについて楽しく学びました。食育講座は、生協の食材を利用している法人や一般の幼稚園・保育園・小中学校向けに開催しています。

生活協同組合パルシステム埼玉

17年目を迎えた南埼玉産直ネットワークとの交流



田植えの様子

パルシステム埼玉と南埼玉産直ネットワークの交流は17年目を迎え、5月28日(土)に「2022年度岩槻田んぼ交流」がスタートしました。抜けるような青空の下、7家族26人が参加し、田植えを行いました。今年も生産者のみなさんの指導のもと、彩のかがやきを育てます。

参加者は泥の感触に戸惑う中、慣れるにつれ楽しみながら植えることができました。今後も草取りや生きもの観察などを通じて、農作物を育てる苦労や農業を使用しない環境保全型農業への理解を深めます。

埼玉大学生生活協同組合

3年ぶりに対面での新入生交流会を開催



今年の新学期、2019年以来となる対面での新入生交流会を開催しました。感染対策のため、人数制限での開催となりましたが、体育館でのレクリエーションやゲームなどで新入生の不安解消と友達作りのお手伝いをしました。

3日間で開催し、合計で100人以上の参加者がありました。まだまだ以前のような大学生活には戻っていませんが、いろいろな企画を少しずつ再開させていきたいと考えています。

医療生協さいたま生活協同組合

「くらしの学校」で新たなつながりを



医療生協さいたま県中地域ネットワークでは、健康や医療・介護、くらしに関わる社会保障制度、憲法を学ぶ「くらしの学校」を開校しました。講座は「子どもたちの笑顔ある社会って」「車の運転をやめたとき」「よりよい人生のしまい方」の3つ。「よりよい人生のしまい方」では、看護長を講師に「アドバンス・ケア・プランニング(人生の最終段階における医療やケア)」などを学びました。また、ゲームを通してこれまで自分が大切にしてきたこと、最期をどのように迎えたいかなどグループワークで理解を深めました。「死について具体的に考えられた」「人生の最期を家族と話そうと思った」などの感想があり、今後、ほかの地域ネットワークでの開校をすすめています。